

令和元年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立西乙訓高等学校 】

1 実践テーマ	【 II III IV 】
2 実施対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3年生スポーツⅡ 選択者女子9名</li> <li>・ 全校生徒（580名）</li> </ul>
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 教科名（スポーツⅡ、総合的な探究（学習）の時間）</li> <li>② 行事名（オリンピック講演会）</li> <li>③ その他（国際交流、国際理解）</li> </ul> <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① イベント名（ ）</li> <li>② その他（ ）</li> </ul>
4 目標 (ねらい)	<p>(1) ① ブラインドサッカーを体験することにより、障害のある方への理解を深め、共生社会の一員であるという自覚を醸成する。</p> <p>(1) ② オリンピアン講演を聞くことにより、オリンピック・パラリンピックの理念を理解し、自国開催についての関心を高める。また、夢を持ち継続して努力し続けることの大切さを学び、高校生活へのモチベーションを高める。</p> <p>(1) ③ 海外からの訪日団を受け入れ、高い英語コミュニケーション能力とおもてなしの心を育成する。</p>
5 取組内容	<p>(1) ① 【スポーツⅡ「ブラインドサッカー体験」】</p> <p>第1回 令和元年6月12日（水）3・4限 第2回 令和元年11月20日（水）3・4限</p> <p>保健体育課教員から、ブラインドサッカーについての競技方法やルール等の説明を受け、1回目の授業ではパス、ドリブル、ディフェンス等の練習を行い、2回目の授業では実際の試合を行った。</p> <p>(1) ② 【オリンピック講演会】</p> <p>令和元年12月17日（火）5・6限 講師：齋藤 里香氏 北京オリンピック女子ウエイトリフティング6位入賞 対象：全校生徒（580名） 内容：オリンピック・パラリンピックの理念について 自身の体験を踏まえた夢を持ち努力し続けることの大切さについて 等</p> <p>(1) ③ 【国際交流に係る活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和元年6月12日（水）</li> <li>フィリピンのホーリー・スピリット・マニラ大学附属高校生3名、引率2名の受け入れ</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年6月17日(月)～24日(月) アメリカのシャコピー高校生11名、引率1名の受け入れ</li> <li>・令和元年7月11日(木)アメリカのアーリントン高校生18名、引率3名の受け入れ</li> <li>・令和元年9月25日(水)アメリカのアーリントン市友好団 市長、教育長、関係者3名の受け入れ</li> </ul>
<p>6 主な成果</p>	<p>【ブラインドサッカー体験】 アイマスクをしながらボールを操るためには、ボールの中にある音源やガイドの声に対する集中力がいかに重要かということを実感することができた。障害のある方が、生活する上でいかに困難さに直面しているかということを実感し、障害のない人の協力がいかに大切かということを知ることができた。</p>  <p>【オリンピック講演会】 生徒たちのオリンピック・パラリンピックへの理念への理解が深まり、自国で開催されることへの関心も高まった。また、齋藤さんご自身の、夢をあきらめず努力を続けられた経験談を聞き、多くの生徒が今後の高校生活に前向きに取り組もうという姿勢を持つようになった。</p>  <p>(生徒の感想より)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私が心に残ったのはWE ARE THE SUPER HUMANSのビデオで目が見えなかったり、手足がなくても楽器を演奏したり、義足をつけたり車椅子に乗ったりしてスポーツをしたりしてはって、人間ってすごいなと可能性を感じました。私は運動が苦手です。今まで運動することから逃げてきたけど、今は努力しなければいけない時期だと分かったので、勉強からも運動からも逃げずに少しずつ努力しようと思いました。</li> <li>・オリンピックとは競技をして順位を争うだけのものではなく、創始者のクーベルタンが大切にしていたオリンピズムを達成するためにあるのだと学びました。私が個人的に心に残った言葉は「努力をしても報われるとは限らない。」です。つらい経験もされたからこそその言葉だと思うので、すごく心に残りました。</li> <li>・努力しなければ叶えない夢は叶わないという言葉がとても心に響きました。オリンピックが何かを今日知ることができ、来年のオ</li> </ul>

	<p>リンピックがもっと楽しみになったし、日本の選手だけでなく世界中の選手を応援し、盛り上げていかなくてはならないと思いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>私も今、部活を頑張っていて、勉強との両立が大変でやめた方が良いのかなとか、試合などでガチガチになっていつも通りのプレーができなくて怒られたときとか辞めたいとか、こんなに今、部活を頑張っているけど将来役に立つのか分からないし、とか思っていたけど、将来のことは誰も分からなくて、今一生懸命に頑張っていることが役に立つときがあるということを信じて、今の間に努力していこうと思いました。</li> </ul> <p>【国際交流に係る活動】</p> <p>海外からの高校生には、必ず本校生徒がペアになり一緒に授業や部活動などに参加する体制（シャドーイング）を取った。生徒個々のおもてなしの心の醸成や、英語の運用能力（リスニング力・スピーキング力）の向上に役立ったと思われる。また、外国の人に対して自身の高校生活や日本文化を紹介する機会を持つことによって、改めて日本の良さを見つめ直すきっかけとなった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>7 実践において工夫した点 （事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブラインドサッカー体験では、段階的な指導を行うことで安全面への配慮を行った。</li> <li>・オリンピック講演会では東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会アスリート委員の齋藤 里香氏を招き、ご自身の体験談だけでなく、オリンピック・パラリンピックの理念や意義についてもお話しいただいた。</li> <li>・国際交流については、一部のクラスだけではなく全校生徒が参加できる形での交流を行った。</li> </ul>
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業を行う上での校内体制をどうするか。</li> </ul>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>いよいよオリンピック・パラリンピックが開催される年度となるが、夏の開催までの短い期間で実際に何ができるのか、実施も含め検討しているところである。</p>